

令和元年度 さいたま市立岩槻小学校 自己評価書

校長 吉野 寿一



1 学校で設定した「令和元年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- ・学校の教育目標「豊かな心を持ち、自己の能力（よさ）を最大限に発揮できる、心身共に健全な子どもを育成する。」
- ・学校経営方針 「自分のよさを見つけ、目標に向かってチャレンジしていく子」の育成
- (1) 学習指導要領、「さいたま市の学校教育」及び本校の実態を踏まえた教育課程の工夫と実践により、できた喜び・学ぶ楽しさを味わい、自ら学びに向かう児童の育成に努める。
 - －「児童生徒の学力・学習状況」「教員の授業にかかわる評価」
- (2) 児童一人ひとりのよさに気付かせ伸ばす、学年・学級経営の充実を図る。
 - －「児童生徒の状況」「学校における働き方改革の視点」
- (3) 家庭・地域・関係機関と連携し、地域の教育力を活用する。地域の伝統文化を実感し、郷土を愛する心情を育む教育を推進する。－「学校と保護者、地域住民との連携の状況」
- (4) 健康でたくましい身体と豊かな心を育む教育を推進する。児童の安全・安心とそのための体制整備を推進する。－「各教科の授業の状況」「安全管理の状況」「安全教育の状況」
- (5) 学校いじめ防止基本方針を教職員、児童生徒、保護者、地域の方々へ周知し、いじめゼロをめざし組織的に取り組む。－「いじめの防止等の状況」

2 評価結果について 成果（○）と課題（▲）

- (1) ○昨年度から算数科の研究に取り組み、実践を継続できている。今年度は「学びのグラデーション」を新たに作成し、学習の振り返りの充実を図ることで、児童が学習への理解度を意識するようになった。
 - ▲児童個々で基礎学力の定着に差がみられる。
- (2) ○児童主催の「パフォーマンス大会」を年2回開催。特技を披露する場を設けたことで、自尊心の高まりがみられた。また、運営を自分たちで行うことで主体性の高まりも見られた。
 - 会議時間や夏季休業中の出勤日の縮減等、教員の心のゆとりや時間を生み出す取組により、児童と落ち着いて向き合う時間の確保ができた。
 - ▲特別な支援を要する児童への、より組織的な対応が必要である。
- (3) ○町探検や裁縫の手伝い等の家庭との連携、人形作り等の地域との連携など、保護者や地域の方々の協力を得ながら授業を進めることができ、大きな成果を得ることができた。
 - ▲コミュニティスクールの具現化に向け、より一層、地域の教育力を活用した学習が進められるように工夫したい。
- (4) ○体育的な活動が充実し、児童の体力向上につながる取組が充実した。安全な登下校が保護者や地域の方々の協力のお蔭で実施できた。
 - ▲岩槻区内における不審者情報も多くあり、安心メールを使った情報提供の回数が多かった。
- (5) ○生徒指導委員会を月に1回実施しきめ細やかに対応することができた。また、緊急時には特別に開催し、速やかに組織的な対応を行った。
 - ▲一部の児童に、名札を付ける、ポケットから手を出す、廊下は歩く、といったきまりの徹底に課題がある。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- (1) 一斉指導と個別指導とを効果的に組み合わせる等の授業の工夫改善を行い、学力向上を目指す。
- (2) パフォーマンス大会を学期に1回行い、子どもたちの主体性をより一層高めていく。
- (3) 新学習指導要領の全面実施に伴い、年間指導計画の見直しを行い、地域の教育力を効果的に活用できるようにする。
- (4) 「自分の身は自分で守る」ことができる児童を育むため、安全教育のより一層の改善を図る。
- (5) 小さなルールの見逃しから綻びが生じないように、指導すべきことは指導することを徹底する。

※ A4 1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。